

**平成 2 9 年度**

**1 月定例教育委員会**

**会 議 録**

**(公 開)**

**平成 3 0 年 1 月 1 8 日**



## 1 再開 14時00分

教育長から、「議題第34号」については、個人情報が含まれていることから、非公開での審議が適当である旨の提案がなされ、出席者全員で異議なく決定した。

## 2 前回の会議録の承認

教育長から、12月21日の12月定例教育委員会の公開部分の会議録の承認について諮られ、出席者全員で異議なく承認した。

## 3 議事

### ◎ 議題第35号 県指定文化財の諮問について

#### 文化財課長

(資料に沿って説明)

総合しますと、それぞれの紀年銘が製作年代として妥当なものであると考えられますことから、本県の金工史上意義が大きいものとして今回有形文化財の諮問をお願いするものであります。説明は以上であります。

#### 島原委員

県内にこれを鑑定できる方がいらっしゃるのか、どこかにお送りして鑑定していただいているのでしょうか。

#### 文化財課長

文化庁の調査官の紹介で、この鰐口に詳しい方が滋賀県にいらっしゃるということで、滋賀県の方に写真をお送りして見ていただいて、年代的にも妥当なものではないかということでした。また、2月の初めの方に写真で御意見いただいた先生をお呼びして、実際見ていただいて確かめたいと思っているところです。

#### 島原委員

はい、ありがとうございます。

#### 宇田津委員

御説明の中で知識として知りたいのですが、4ページの方なんですけど、最初に1381年という刻銘があるということなんですけど、その後文明13年ということなんですけど、これは大体西暦何年かということと、もう一つ、最初は製造年月日というよりも何かの記念としての刻印というか日付の刻印と考えた方が良いのか。結局、国富の方に渡ったということですよ。そのときに、この日付というのがやっぱり記念としてこの日付だということと考えて良いかどうかを教えてください。

#### 文化財課長

文明というのは15世紀で、1400年代です。

#### 宇田津委員

大分経ってからということですかね。

### **文化財課長**

そうですね。鰐口自体が一族の安寧等を祈願したり戦に行くときに勝つことを祈願して神社やお寺に奉納するという形があります。移動するのは他の県でもいろいろありまして、友好関係の中で寄贈される部分もあつたり、もしかすると戦がある中で戦利品として持って行かれたりとか、いろいろな事情で移動しているみたいで、あるいは戦のときに打ち鳴らして戦に持って行くとかそのような状況があり、大隅から日向に来て熊本に移動する事例があるようです。文明のときに鹿児島の方から伊東氏と北原氏との関係で来たのではないかということ想定しているところがあります。

### **宇田津委員**

移動している割には保存状態が非常に綺麗だということではありますね。分かりました、ありがとうございます。

### **教育長**

この鰐口は他の県の文化財に指定されているとかいうのはあるんですか。

### **文化財課長**

1点、行藤（むかばき）神社の方で17世紀の鰐口が鉄製なんですけど、昭和40年代に1点指定されております。

### **教育長**

それだけですか。

### **文化財課長**

はい。それ以外にも市町村指定などで15件ほど指定されております。

### **教育長**

他に、質問や意見等はありませんか。

それでは、この件については、案のとおり決定します。

## **4 その他**

### **◎ その他① 県立高校生の就職内定状況について**

#### **学校政策課長**

（資料に沿って説明）

これからも生徒がミスマッチによって早期離職となることがないように、ハローワーク等の関係機関と連携を図って就職支援に努めてまいりたいと思っております。以上です。

#### **島原委員**

この数字を見ると単純に県内就職率92.3%、就職内定率の県内の就職内定率が92.3%というのが例年と比べると低い数字となっていますけれども、この要因をどういうふうに考えられているのでしょうか。

### 学校政策課長

この要因は様々ありますが、今回担当が学校に1校ずつ聞き取ったことで特徴的なのは、141名のうち3分の1ぐらいの生徒がまだ就職試験自体を受けていないということです。これは求人が豊富にありますので、生徒も保護者も慌てなくても「今から良い就職が出てきたらそこに行こう。」というような感覚であったりとか、先ほど申し上げたように公務員に1回落ちてそこから専門学校に切り替えることもなく、どこか県内に就職しようとしたまま時間が過ぎていく生徒ですとか、そういった生徒の合計で今回マイナス3.1%という状況になっていることが聞き取りによって分かっています。

### 島原委員

なるほど。公務員からの転換というのは例年と比べるとどうなのでしょう。

### 学校政策課長

公務員の合格状況というのは例年と大した差はないのですが、公務員を不合格になった場合、更に公務員を希望する生徒は専門学校に行くため進学に転換しますので、例年と比べて公務員の希望者によって数字が移っているという状況は現れていないということになります。10月の時点では公務員希望が多かったので希望者が例年よりかなり多いということで内定率が低いと説明したんですが、今はもうほとんど合否が分かっていますので、公務員を理由にはできないということでいろいろ聞き取りをしたところでした。

### 島原委員

ということは、そもそも先ほどの説明の中にあっただけ、受けていない生徒さんが多いということ、現状ではそういうふうに考えているということですか。

### 学校政策課長

はい。そういう生徒が今回聞き取りによって出てきました。かなりの割合、3割程度が就職に対して積極的にがむしゃらに、何が何でも早い時期に決めるという生徒でない生徒も見受けられるようになったというのが聞き取りでの新たな兆候と捉えています。

### 島原委員

逆に危機感を感じますね。働くということに対してあまり前向きでないというふうにとられるのでしょうか。どうなのでしょう。

### 学校政策課長

アルバイトをしている生徒も中にはおりますので、その高校生のときのアルバイトを続けながらどこかにという生徒もいるようですし、「消極的」と位置付けてし

まうには疑問点もあります。

### **島原委員**

なるほど、特徴的にそういうふうな。今回明らかに数字に出ていますけれども、まだ完全な分析には至っていないけれどもこういう状況が生まれているということですか。

### **学校政策課長**

ただ1月に入って、例えばある学校は10名更に内定が決まったというところもありますので、また更に改善されている状況ではあると思いますが、この12月31日の時点ではそういうことでありました。

### **島原委員**

なるほど。1人に対する求人の数というのは、かなり増えてきているというふう聞いていますので、まだ選べるというふうに考えているということなんでしょうかね。

### **学校政策課長**

そういう生徒は今まで受けていないということなのですが、先ほど申し上げた生徒以外は1回2回は受けて落ちてきています。県内企業も求人は出しながら実際、不合格は最近たくさん出している状況がありますので、求人がたくさんあるから就職しやすいという状況でも、特に県内企業の場合は内定率が高くなるわけではないという状況も、この数字に出てきているんじゃないかと思います。

### **島原委員**

不合格の率が上がっているというデータはあるんですか。

### **学校政策課長**

それは特にありません。

### **島原委員**

今のところない。

### **学校政策課長**

ただ、最近話題になっております、県内に誘致した企業等に受験した生徒に対して不合格をかなり出していますので、その辺りもやはり影響しているというふうに思います。

### **島原委員**

なるほど。もう少しデータの分析が必要ですね。

### **学校政策課長**

はい。今だとまた違います。刻々と変化しておりますので、そこを注視していき

たいと思います。

### **島原委員**

県内企業ですね、人手不足はかなり厳しい状況にあります。多分、県内企業は少しでもチャンスがあれば採用したいというふうに考えている企業はたくさんあると思いますので、この情報というのは県内企業に伝えて、採用を促進するようにということも言っているんじゃないかなと思います。

### **学校政策課長**

はい。そのように取り組んでいきたいと思います。

### **宇田津委員**

課長がおっしゃったように求人が豊富にあるということ、そして企業の方も人手不足で求人は出しているけれどもなかなか来ないということのように感じるんですけども、実際、うちも高校を卒業した子ども達もいて、宮崎県内でも就職できる子ども達もたくさんいるのに県外に出てしまっている現状というか実情もあるんですが、そこは保護者もそうなんですけど、やはり宮崎県全体が宮崎県の良さであるとか暮らしやすさであるとかそういったもの、給料の高さだけではない宮崎の魅力だったり、宮崎に住もうという魅力だったりという全体的なものを考えながら、そこは学校教育現場の中で、例えばキャリア教育の中であるとか、小さい小学校ぐらいからでしたら「さいと学」もありますけど、宮崎の偉人の紹介をしたりして、「宮崎県はこれだけ良い県だよ。野菜も食事も食べ物も美味しいし、環境も良い、空気も綺麗だ。」というような、宮崎県全体のアピールの仕方、現役の小中高校生、もちろん保護者もそうですけれども、宮崎の良さが伝わっていないというか、そういうところをよく感じるんですよ。それは逆に言うと、県外に一旦出て初めて分かることかもしれませんが、宮崎の良さはやっぱり私は教育委員会としても現場の中で、もう少し伝えていった方がいいのかなというふうには日々生活をしていて思います。いろんな情報で「都会の暮らしがいい。」とか「県外に出たい。」という子ども達もいっぱいいる中で、本当に情報があふれていますので、良いことばかりとか楽しいことばかりというかイメージ的に考えて企業を選んだり、それこそネームバリューで選んだりとかいうのがあるんですけど、宮崎県も頑張って企業誘致をいっぱいしてくださっています。だから企業もすごく良い企業さんがいっぱい入ってきて、できるだけ宮崎の良さも含めて、企業の良さも含めて、委員会、学校の中とか社会教育の中で広げていくといいなと思いますけど、いかがですかね。

### **学校政策課長**

宇田津委員のおっしゃるとおりの内容で、教育委員会、雇用労働政策課、労働局で現状を把握して対策を考えるということです。「産業人材育成・確保のための取組指針」という指針を12月に出しているところですが、そこで「県内では働きたくない。」という高校2年生のうち、「県外で生活したいから。」と答えた生徒が5割以上。「県内には働きたい企業・職種が少ないから。」と答えている生徒が40数%いるという現状があります。やはり宮崎で暮らす良さですとか、宮崎の企業のことを知らないという現状があると考えていまして、今言いましたが雇用労働政

策課とか労働局と協力して、まずは教育委員会としてはキャリア教育支援センター、そこで小学校中学校のときから含めて宮崎の良さ、宮崎で暮らすことの素晴らしさを伝え続けること、地元企業で「よのなか教室」に取り組んでいますけれども、そういった場面で子ども達に宮崎の良さというものをアピールしていく、それから宮崎での暮らしや県内の企業の魅力を冊子やパンフレットで知らせていく、さらに、宮崎で暮らして宮崎で働くということを保護者に、ターゲットが教育関係者なら社会減の深刻さを啓発活動を含めて取り組んでいくということで、今、県をあげて取組をしていこうというところですので、おっしゃるとおりで、今から徹底していかなければいけないと思います。

### 宇田津委員

私達の意識もそうですね。本当にそうだと思います。ありがとうございます。

### 島原委員

私も関連して、よろしいですか。一つの事例としてお話をしたいんですけども、他県の事例でワークショップみたいな形で生徒さんに考えさせるということをやって、田舎で暮らして働くということ、都会で暮らして働くということ、それぞれ良いところ悪いところ何があるんだろうと出させて、それを分類してということを見せているという事例を聞いたことがあります。やっぱり考えさせる、「働くということはどういうことなんだろう。」とか、「生きるということはどういうことなんだろう。」とか、「本当の豊かさとはどういうことなんだろう。」「本当の幸せとはどういうことなんだろう。」ということを考えさせると。情報を発信して、「それを取りなさい。」と言うと、最近は情報は氾濫しすぎてそれ自体を疑ったりするんですね。やっぱり自分達で「どういう生き方をするのが本当に良いことなんですか。」というのを考えさせるということ、キャリア教育の中でももっとやっていくということが大事なことなんじゃないかなというふうに思います。

ちょっと長くなりますが、もう1点。やっぱり働くということがすごく大事なじゃないかな、働く場があるということ、働く場を作ることがすごく大事なんじゃないかなと思うんですけども。去年アメリカに行く機会があって話を聞いたら、アメリカ西海岸は特にシアトルですけども、世界的な企業がたくさん生まれているんですよ。アマゾンとかマイクロソフトとかコストコとか。いろんなところが生まれているんですけども、なんでそういうふうに生まれたかという、東海岸はいわゆる階級がきちっと決まっていて、なかなか社会を変えていくのが難しいと。でも西海岸の方はすごく自由で、若者がどんどん新しいことをできるという雰囲気があると。とすれば、宮崎もそういう土壌を作って新しい仕事が生まれるとすれば、その既存の企業だけではなくて自分達で仕事を作り出していこうとか、さっき宇田津委員が言われたようにですね、宮崎県全体の魅力を上げていって、そこで仕事を作り出す。そこで働くということと暮らすということを考えるというような全県的な取組になるんじゃないかなというふうに思うんですよ。そういう宮崎らしさというか、「宮崎の土壌はこういう土壌なのでこういう文化が生まれ、こういう仕事が生まれるんじゃないか。」ということ、もっといろんな人を巻き込んで話をすると、「今仕事がないよね。」というのではなくて、これからの将来に向けて、彼らが社会に出て来て社会の主役になるときの将来に向けて、「宮崎はこういう



ふうな方向を目指している。」ということが彼らの希望になれば、もっと宮崎の将来像を明るく描けるんじゃないかなと思うんですけどね。私達企業人がもっと頑張っているのももちろんあるんですけどね。それもやらないといけないと思いますけれども、働くということ、暮らすということに対して、どういう価値観を持つかということもこれからすごく大事な事かなと思いましたので発言させていただきました。

#### **宇田津委員**

シアトルは人口はどのくらいなんですか。

#### **島原委員**

シアトルは70万人です。

#### **学校政策課長**

ワークショップの事例は、キャリア教育にそのまま生かせる事例だと思いますので、そういう方向で取り組んでいきたいということと、アメリカ西海岸の例ももう少し情報をいただきながら教職員や児童生徒に広めたいというふうに考えますので、よろしくお願いします。

#### **松田委員**

企業の方は人手不足で求人数は多いという状況を先ほどお聞きしたんですけど、企業の方は求人数に満たなくても切ってしまう場合があるわけですね。これは企業側の求めるレベルが高いんですか。それ以外の要因があるんでしょうか。

#### **学校政策課長**

これは企業から聞き取った内容を一部含むのですが、生徒と個人面談をされたりする中で、やはり取捨選択していく企業があります。だから希望する者は採るという形ではなくて、全国基準に合わせて生徒を採っていくと。それで、また次々と求人を出していくという感覚にあるということが一つの不合格を出される原因だというふうに考えています。もちろん就職試験を受けますので、基礎学力の面もあると思いますが、来た生徒の中で選抜をされている状況があるんじゃないかというふうに思われます。

#### **松田委員**

ということは、その高校で学んだことが不十分で企業が採用しなかったということはないんですよね。

#### **学校政策課長**

そういう状況は見られないと思います。

#### **島原委員**

それに関連するんですけども、高校生は今1人1社しか受けられない制度なんですよ。地元企業は、推薦を受けたらほぼ多分必ず採るんですよ。誘致企業さん

には誘致企業さんの考え方があるんだろうと思うんですけども、地元企業が学校とどれだけ信頼関係を結ぼうとしていて、本当に会社が、推薦した子どもの将来も考えて採ろうとしているというのをもっと伝えたいなというふうに思いました。

### **学校政策課長**

県外の例えば一部上場企業ですと、毎年同じ学校からコンスタントに人を採っているという状況がありまして、それで推薦したら内定が決まるという状況がありますので、県内企業ともそういう関係が築ければ、そういう何回も落ちてという生徒は少なくなってくるんじゃないかと思います。

### **島原委員**

先ほど不合格になるというのが、県内の誘致企業さんに限らないということですか。

### **学校政策課長**

はい、限らないということですが、1人2人採用のところでどれだけ落ちてきたかという情報はまだありません。そこはまだ分析中です。

### **松山委員**

島原委員に質問なんですけど、1人1社しか受けないというのはどういう趣旨ですか。

### **教育長**

それは、学校政策課長から説明します。1人1社しか受けさせないというのは。

### **学校政策課長**

以前1人1社だったんですけど、11月からは1人2社まで受けられます。

### **島原委員**

11月からはですね。11月からはそうですけれども、7月の段階で、最初に受ける場所は1人1社という制度に高校はなっているんですよ。というのは、大学と違ってたくさん会社を受けられるわけではないので、全ての生徒さんに機会を与えるということで、高校の中で調整をというか希望を募って1人1社ずつ受けていきましょうねという仕組みになっているということです。

### **松山委員**

宮崎の制度なんですか。

### **島原委員**

他県がどうかは分からないんですけど、他県も同じような状況じゃないのかな。分かりますか。

### **学校政策課長**

県によって若干違うということで具体的な情報は持ち合わせておりません。

### **教育長**

一般的に考えれば企業の方からしても、掛け持ちされてせっかく試験で合格したけどそっちに行ってしまったというのがあるので、ある意味では企業側の要請として1人1社というのものもあるような気はしますけれども、その辺はどうですか。

### **島原委員**

私は、企業側というよりは生徒さんが学業優先ということで高校生の場合はいくつも企業を受けるわけではないので、大体1社に決まってくるので、皆が受けられるように1人が2社も3社もということにはなっていない、そういう仕組みを作っているという理解をしていました。その理由がまた分かれば。

### **教育長**

いずれにしても、こういう人手不足という状況ですから、企業で落とされるということのもっと詳しい状況だとか今の問題であるとか、できるだけ細かく分析してもらって、来年以降なるべく県内就職率が少しでも伸びるように考えないといけないですね。

### **学校政策課長**

県内企業の方も今は内定を早く出していただけるようになっていきますので、そこもまたプラスにして指導していきたいと思います。

## **◎ 次回会議の日程等について**

### **教育長**

それでは、次回定例会は、2月15日、木曜日、14時からとなっておりますのでよろしく申し上げます。

これより後、会議冒頭の決議により非公開とします。

傍聴者の方は、御退席をお願いします。

暫時休憩とします。